

講義名	オ)財務管理論		
担当教員	福田 司文		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

本授業は企業経営の問題を扱うが、扱いは経営の資金問題で資金がテーマとなっている。資金とはどのような点を問題とするのかと言えば、企業はどのように資金を調達し、その資金を運用するか(使うか)を考える分野である。調達とはどのような手段があるか、適切な調達とは何かを問題にしなければならない。運用については運用手段や運用の合理的な基準が問題になる。企業の資金の動きの概要を理解し、その際、利用されるいくつかの基本的基準を学習する。現在の財務は高度に発達していたが、その基本的な仕組み、考え方が理解できるように授業を進める。

授業の内容は、問題にするテーマについての事例とその理論を組み合わせて説明するように努力する。財務管理は会計学とは問題の取扱が異なるため、必ずしも会計の知識が必要と言っただけではないが、会計の知識があった方が理解容易であるのは事実である。

到達目標

(1)資金繰り等を学習することで企業の資金の動きが理解でき経営の仕組みを理解できる。財務的側面から経営の分析ができるようになる。
(2)資本コストの考え、投資決定の考えが理解でき、経営の現状分析、意思決定に貢献できるようになる。
(3)資産収益と(株式収益率)とリスクの関係が理解でき、資産評価の原理が理解できるようになる。
(4)株式会社の仕組みや企業グループでの株式の役割を学習することで企業経営の仕組みや株式が経営に占める重要度が理解でき、さらには企業の社会的役割、企業の直面する問題を理解できるようになる。

提出課題

授業内容を理解したかについて課題を課す。さらにはレポートも1-2回提出を要求する。毎回の課題は、responあるいはMS-FORMSのどちらかを利用する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

理解確認クイズ、レポート課題、Responの正解等については授業中に説明する。対面授業に比べてオンデマンド授業の方が課題は多くなることは注意しておいてください。

評価の基準

理解確認クイズの提出、Responの回答を使って日頃の理解力を確認、提出レポートを平常の理解度とみなし40%の割合とする。期末試験の結果は60%とする。ここでの期末試験は、回答期限が短く設定された問題に解答してもらう(形式はレポート提出と同じである)。

履修にあたっての注意・助言他

毎回の内容の理解の積み重ねが必要で、きちんと出席してください。内容については、財務はお金のことです。そのため基本的な思考は、数字でいるんなことを考えることにあります。きちんと積み重ねる学習をしないと分らなくなるので、出席だけでなくきちんと聞いて理解してください。質問は大歓迎です。どんどんしてください。授業では計算することが必要になるので電卓等の計算機が必要です。

教科書	.使用せず.				

プリント資料及び参考文献

配布のプリントで進める。下の参考文献は理解の助けになる。

<参考文献>
島、入門コーポレートファイナンス、日本評論社
棚原、菊池、新井、現代の財務管理、有斐閣
花枝、企業財務入門、白桃書房

授業計画

- 1回 企業の活動と財務の役割 会社の形態
- 2回 企業の活動と財務の役割 会社の構造
- 3回 財務諸表とその構造
- 4回 財務諸表とその構造、分析
- 5回 経営を計画する 利益分岐点、ROE、ROA
- 6回 現金の重要性、簡単な資金繰り
- 7回 資金繰り表の作成
- 8回 現代企業の財務目的 複利計算
- 9回 現在価値
- 10回 株式評価の基礎
- 11回 株価モデル
- 12回 資本コスト 個別資本コスト
- 13回 資本コスト 総資本コスト
- 14回 キャッシュフローと投資決定
- 15回 投資決定基準と全体のまとめ

1回で完結しないかもあるのことに注意。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習よりも復習の方を重視します。予習については参考文献の関連項目を参考にしてください。また、常に課題を課します。課題については2時間程度の復習が必要です。また次回要求する時間が必要なレポート課題については6時間以上の復習が必要です。毎期確実に2時間は復習してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経営学科共通のDPについて
目標(1)、(4)を達成することで共通DPに貢献できる。株式会社の仕組みや企業内での資金の動きを理解しておくことは業界の動向や問題点を理解するために必要である。
経営戦略コースについて
目標(4)を達成することでDP の経営の仕組みについて考え、理解できるようになる。目標(1)、(2)を達成することでDP の現状分析、改善に結びつけることができるような分析ができるようになる。
グローバル経営コース
目標(4)を達成することでDP の経営の仕組みについて考え、理解できるようになる。この科目ではグローバルな視点からの経営財務については授業回数に制限のためほとんど触れることができないため、DP について貢献するところはない。
会計コース
会計の初歩的な知識を活用することで、(1)、(2)の目標を達成することができる。(1)、(2)の目標を達成することで DP に示す財政状態、経営成績を分析する初歩的な力を得ることができる。目標(1)、(4)を達成することでDP に示される企業が直面する問題や企業の強みを発見して戦略構築に貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

YouTube利用のオンデマンド授業です。オンデマンドの授業と対面の授業では進行スピード、課題内容が異なることがありますので、対面授業受講者の情報は参考にしないでください。